



## 公的統計のマイクロデータを活用したインドネシア村落の 社会変容に関する広域把握・分析手法の検討

◆ 日時(予定):

2015年12月14日

◆ 開催場所:

京都大学東南アジア研究所

◆ 企画概要:

現地調査データと共に分析に用いるインドネシア中央統計庁が発行する村落潜在性データ(Potensi Desa/PODES)や国勢調査などの統計資料のマイクロデータ活用方法に焦点を当てたワークショップを開催する。

PODES:1980年代以降の社会・農林業に関する細かい項目を村落単位かつ全国規模でまとめた統計データ

1990年代以降、インドネシアにおける産業造林やアブラヤシ栽培の導入・拡大過程を分析するためには、村落レベルでの特徴把握・経年比較が必要である。しかし、調査対象が広域にわたるとフィールドデータのみでは限界がある。そこで、統計データを活用する事によって、村落社会の変容を国家・地域レベルで把握する。本企画では、特に紙媒体の国勢調査データやPODESだけではなく、それらのマイクロデータのデジタル情報に注目し、その活用方法を検討していく。

本企画を通して、マイクロデータの取り扱い方やその有効な活用に関して意見交換を行う。そして、今後の共同研究の基盤となる研究者間のネットワークの構築と同時に、共有可能な統計データの幅を広げていきたい。